

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年5月11日

【評価実施概要】

【評価実施機関】

事業所番号	0173600123		
法人名	社会福祉法人 緑陽会		
事業所名	グループホーム竹とんぼ		
所在地	〒059-1265 苫小牧市字樽前2 2 2 番地 1 1 (電 話) 0144 - 61-7788		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年3月26日	評価確定日	平成22年5月11日

【情報提供票より】（平成22年2月28日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和 平成 12 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.97人	

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1 階建ての 1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	36,000～37,200 円	その他の経費(月額)	15,000～15,500 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり	1,300 円	

（4）利用者の概要（ 2 月28日現在 ）

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低 79 歳	最高 93 歳		

（5）協力医療機関

協力医療機関名	道央佐藤病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、平成12年に市内で2番目に設立した。運営法人は、介護保険関連事業所等を幅広く展開しており、同一法人の特別養護老人ホームと併設している。前方に樽前山を望み、農家が点在する広々とした畑と林に囲まれ、四季折々の変化が感じられる自然豊かな環境に位置している。徒歩圏内に小動物がいるメモリアルパークがあり、利用者が日常的に散策し動物に餌をやる楽しみを感じているなど、生活の中でリハビリを兼ね健康維持につながるよう支援している。また、協力病院が近く、24時間体制で連携を図れることや、廊下伝いにつながっている併設の施設からの支援が、利用者と家族の安心につながっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 前回評価で課題とされた同業者との交流については、近隣の同業者との相互訪問を通して利用者と共に交流を行っている。運営推進会議の2ヶ月ごとの開催と家族参加については、会議への家族参加も実施すると共に新年度から2ヶ月ごとの会議開催を計画し、改善に向け取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 職員一人ひとりが日々のケアの確認として自己評価に取り組み、職員全体で話し合いまとめている。管理者と職員は外部の目線の大切さを認識し、ケアのあり方を再確認し改善に努める機会として外部評価を活用している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議は、家族、町内会役員、地域包括支援センター職員、運営法人事務局長、管理者、職員で3ヶ月ごとに開催している。会議では、利用者の暮らしぶりや事業所の状況等を説明している。また、行事案内や災害対策、避難訓練を報告し、外部評価結果を提示して、意見やアドバイスを得ながら運営に活かすよう取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族の日常的な来訪時や行事への参加を通して、家族が不安や意見を話しやすい雰囲気づくりに心がけている。事業所内に苦情対策委員会を設け、苦情時に速やかに対応できる体制にして家族の不安に配慮し、意見を運営に反映するよう取り組んでいる。市及び公的な第三者苦情窓口も提示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 近隣に住宅が少ない環境なので、日常的に地域住民と触れ合う機会は少ないが、散歩時に声をかけ合ったり、幼稚園や小学校の行事への参加や児童の訪問を通じて交流を行っている。法人の夏祭りには地域住民も参加しており、住民と触れ合う機会となっている。また、町内会役員を通して町内会行事への参加も検討中である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人の理念を基本に、「穏やかで楽しく尊厳のある生活」と「その人らしい生活スタイル」を支援し、地域と共に、地域の一員として暮らすことを目指した事業所独自の理念のもとケアに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をスタッフルームに掲示し、毎月のスタッフ会議時に職員全体で理念を共有し、日々のケアに立ち返りながら実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣に住宅が少ない立地環境ではあるが、幼稚園児や小学校等との交流、法人内の夏祭り等の行事を通じて地域住民と触れ合う機会を設け、地域の一員としての交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが日々のケア確認の機会として自己評価に取り組み、職員全体で集約して作りあげている。また、外部の目線の重要性を認識し、ケアのあり方の再検討をする機会として外部評価を活用し、評価結果を家族や運営推進会議に提供し、改善に努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族、町内会長、町内婦人部長、地域包括支援センター長、管理者、職員等を構成員として3ヶ月に一度開催している。事業所の現状や災害対策、行事案内、利用者の生活状況等を報告すると共に外部評価結果を提示し、意見の収集に努め運営に活かすよう取り組んでいる。今後、委員を通して町内会行事への参加や連携を検討中である。また、新年度から、地域の協力体制の強化を念頭に2ヶ月ごとに会議を開催するよう計画している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターが市とのパイプ役となっており、担当者とは日常的に様々な課題について相談している。また、地域包括支援センターを通して市主催の研修会への協力もできる体制となっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪する家族が多く、利用者の暮らしぶりや健康状態をその都度報告し、状況に応じて電話連絡も行っている。また、季刊誌の事業所便りや行事案内等でも報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に希望や意見を言いやすい雰囲気心がけている。玄関の壁と重要事項説明書に苦情窓口を明示しており、苦情受付の流れから対応手順、対策委員会、外部の苦情窓口も提示し、意見を運営に活かせるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の管理者とも話し合い、異動等に伴う利用者の不安や混乱への影響に配慮し、職員の異動を最小限にしている。異動がある場合は、利用者の状況を確認しながら自然に受け入れられる工夫を行い、徐々に関わりを多くして、ダメージを防ぐよう努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、グループホーム連絡会の研修や実践者研修に順次参加し、ケア会議時に研修報告を行い、全職員の学びの機会としている。併設の特別養護老人ホームとの協力体制を整備しており、特別養護老人ホームで行う研修にも参加している。また、実践者研修の実習施設でもあり、働きながら学ぶ機会もある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修や交流会を通して、管理者や職員が同業者と交流を図っている。また、事業所の見学受け入れや近隣にある同業者と利用者を含め相互訪問を行い、交流を図りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	介護サービス事業所の紹介や病院から移行する利用者が多いが、事前に本人と家族が事業所を見学し、一緒にお茶を楽しみながら雰囲気を感じてもらい、本人が納得して利用できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの持てる力を大切に、清掃や洗濯物たたみ等を職員と一緒にやっている。また、裁縫の得意な利用者が繕い物をするなど、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のそれまでの生活歴や好みを把握し、その日の表情と行動を通して希望や意向を引き出す対話に心がけ、一人ひとりの思いに沿ったケアに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が来訪した際に、希望や意向を各担当職員が記録し、スタッフ会議で意見交換を行い、介護計画に反映している。介護計画については、スタッフ会議での内容や医師の助言も加えて家族に再度提示した上で、作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が安定している利用者の見直しは6ヶ月ごととなっている。状態の変化に応じてスタッフで話し合い、家族と協議し、随時見直しを行い新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族とのつながりを大切に、冠婚葬祭時の送迎や故郷訪問、寺の訪問、友人との茶話会参加、家族の状況に合わせた通院の送迎等、多機能性を活かして柔軟に支援している。また、看護師を複数配置し、医療連携体制を整え、利用者の身体状況の小さな変化にも対応できるようになっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の嘱託医師による週1回の定期往診に加え、歯科の訪問診療や併設している施設の看護師と連携し、利用者の健康管理に努めている。かかりつけ医への情報提供も行い、適切な医療支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の指針を整備している。利用者の高齢化も進んでおり、事業所の限界を踏まえて家族、医師、看護師、スタッフと話し合い、協力病院と連携を取り、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライドに配慮し、言葉の表現や接し方、記録の取り方にも留意している。排泄時の羞恥心への配慮にも心がけている。個人情報外部から見えない決まった場所に適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった日課は無く、利用者のその時々思いや気持ちを大切に希望や意向を見極め、一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	静かな音楽が流れる中、職員も一緒に食事をし、会話をしたり見守ったりしながら家庭的で和やかな雰囲気の中で食事の時間を楽しんでいる。介助の必要な利用者には、職員が横に座り、焦らずゆっくりと一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めておらず、利用者の体調や希望に合わせて支援をしている。また、浴室の窓ガラス越しに見える外の景色を楽しみながら、ゆっくり入浴を楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫や習字、洗濯物たたみ、モップがけ、小動物への餌やりなど、利用者の能力や得意分野を活かしながら、自然な形で生活の中に役割を取り入れ、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩やドライブ、外食、買い物、小学校の運動会、地域の催し物、併設している施設の行事参加、初詣などの季節感を採り入れた外出支援を実施している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室は開放しており、利用者が何時でも自由に出入りできるようになっている。玄関の鍵は、防犯上、夜間のみ施錠している。日中は、開閉時に鈴がなり利用者や来客の出入りが確認できるようになっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、警察、自衛隊、地域、併設している施設と連携し、災害訓練を実施している。また、年2回避難訓練も実施しており、救命救急訓練も全職員が受けている。マニュアルや連絡網も整備している。今後、夜間想定避難訓練に力を入れていく予定である。	○	定期的な避難訓練を実施しているが、夜間は、職員が一人になる為不安も多く、日ごろから併設の施設や近隣との協力関係をさらに密にし、常に危機感を持って昼夜間想定訓練を引き続き事業所全体で取り組んでいくことが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの水分と食事の摂取量を詳細に記載しており、利用者個々の状態に応じて管理栄養士の指導の下、バランスの良い食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広々とし、窓から草花や木々を眺めることができ、季節の変化を楽しめる。壁には行事の写真や利用者の作品を飾っている。また、ソファをいくつか置き、畳敷きの場所もあるなど、思い思いの場所でくつろぐことができるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、クローゼットと洗面台を備え付けている。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込み、配置も工夫し、思い思いの飾りつけをしており、落ち着いて居心地よく過ごすことができる場所となっている。		

※  は、重点項目。